



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

第28回定期大会・結成25周年記念レセプション開催



全労連青年部は2015年9月12日～13日の両日、東京労働会館7Fラパスホールにて第28回定期大会を開催しました。初日に全労連小田川義和議長、日本平和委員会黒津和泉理事、鈴木満初代全労連青年部書記長から来賓のあいさつをいただきました。

全国から集まった青年の活発な討論と交流により、青年ならではの取り組みや思いが旺盛に語られ、15年度方針の確立にむけ熱く議論を交わしました。15年度方針として、「と

にかく行動！走れ青年部 集い、学びで輪をつくり 出来た願いを響かせる」をメインスローガンに、切実な要求の組織化、対話と共同を推進するために先頭に立って青年の声を広げることと呼びかけ、「『参加してみたい』学習企画」、「つながりをいかした組織拡大・強化」の取り組みを進め、「働き続けられる労働条件を求めて声を上げよう」、「平和と憲法、震災復興・原発ゼロをめざそう」と運動を大きなうねりにしていくことを柱とした方針を確立。役員選挙を行い14人の役員を選出しました。

結成25周年を迎えるにあたり、夕食交流会は記念レセプションとしてOB・OGも招き賑やかに開催しました。多くのOB・OGから激励のメッセージも寄せられました。

青年の思いと現状

討論では代議員自身が職場での働き方や青年部活動の現状、青年ならではの取り組みや思いが旺盛に語られました。

「組合活動に参加できていなかった人へのアピールをしていかないと労組離れがすすんでしまう。みんなが一番これなら闘えるという要求で闘っていく」（生協労連）、「少子化の解決、希望のもてる社会をつくるためにも労働運動を頑張っていこう」（東京）、「自分たちがどんなに正しいことをしていても、警察と小競り合いがあれば、市民には反感を抱かせることになる。自分たちの行っていることが正しいことだということを知ってもらうことも大切だ」（大阪）、「最賃の取り組みとして、審議員に青年部から立候補。時給調査を行い、労働局から内部資料よりも参考になると評価を得たことから今年も提出した」（愛媛）、「教え子を戦場に送るなのスローガンのもと戦争法案反対の運動をしている」（全教）、「ハラスメント調査を行い6531人が回答。1/6がセクハラ、1/3がパワハラをうけていた。ハラスメントうけても1/5は何もできないでいる。何でも話せ相談できる労働組合を広げていかないといかない」（医労連）、「若者の労働条件改善のために団結して活動することを9月の大会で確認。大会終了後は、宣伝カーで街頭宣伝をおこなった。」（北海道）、「NPTニューヨーク行動に参加。全体91人中61人が青年。NYに行く前に、新規採用職員説明会でNPT行動を紹介し署名を訴えた」（自治労連）など各組織から青年の現状や様々な取り組みが報告されました。

青年部が活動を頑張っている時代

最後に新任の阿部のぞみ副部長が「青年部活動の困難さも語られたが、それでも青年部が活動を頑張っている時代なのだ」とも確信した大会になりました。困難な中でも再建したり活性化に向けて頑張っている各地の青年部の交流に励まされた。一緒にがんばっていきこう」と述べました。阿部副部長の音頭で会場全員の団結ガンバロー！で大会を締めくくりました。

2015年新役員体制

副部長	郡司 一徳 (国公労連) <新>	常任委員	菅野 雅臣 (建交労)
	阿部 のぞみ (全教) <新>		中岡 健太 (生協労連) <新>
	西澤 明 (自治労連) <新>		嶋岡 聡 (全印総連) <新>
	矢澤 純 (千葉労連)		保科 雄治 (医労連) <新>
書記長	五十嵐 建一 (全労連)		青山 泰希 (道労連)
			武田 彩 (いわて県労連)
			弓田 盛樹 (岡山県労会議)
			船越 康子 (徳島県労連)
			香月 恒二 (佐賀県労連)

大会宣言

全労連青年部第28回定期大会は、安保関連法案（戦争法案）の廃案にむけ、歴史的な運動が広がり、安倍政権の退陣を求める世論とたたかいのうねりの中で開催されました。

戦後70年間、憲法をもとに私たちは不断の努力で平和を守ってきました。しかし、安倍政権は立憲主義も民主主義も根底から否定し、集団的自衛権の行使に道を開く憲法違反の「戦争法案」を衆議院で強行採決しました。改憲論者も含め、大多数の国民が反対する中で、政府の勝手な解釈により、憲法9条を葬り去ろうとする暴挙は絶対に許されません。労働法制についても、臨時的・一時的という大原則を壊す労働者派遣法の大改悪法案を強行採決・成立させました。暴挙を重ねる安倍政権そのものを早期退陣に追い込むたたかいが求められています。

いま、「戦争法案」廃案を求める世論と運動は「60年安保闘争以来、最大規模の国民的闘争になった」とも言われ、労働法制改悪阻止のたたかいかでも、組織や潮流の違いを越えた共同が広がっています。

大会討論では青年自身が自分たちの言葉で訴え行動する姿が生き生きと語られました。「ハラスメントの悩みなど、何でも相談し合える関係を仲間と作っていきたい」、「私たちの生活にかかわるマイナンバー制度や消費税増税の問題を知ることは大事」、「一人一人がつつながれば大きな輪になる」、「『休みがほしい』など、誰もが思っているがなかなか声をあげられない要求を掲げた宣伝行動やアンケート集約に取り組んだ」、「現在の最低賃金では生活できない。引き上げの運動を強めたい」、「まわりの人に理解してもらえるやり方を学び行動することが大事」、「青年全体の統一要求を作っていきたい」、「沖縄の現状を知り他人事だった課題が自分たちの課題になった」、「原水爆禁止世界大会で被爆者の話を聞き、改めて平和の大切さを実感した」。

こうした知恵を出し合い、創意工夫を凝らした取り組みの積み重ねが、いま大きな流れとなって、青年部の運動が確実に広がっています。

青年が行動するとき世界は動きます。全国各地で「戦争法案は廃案に！」「安倍政権は憲法を守れ！」の声に青年の共感が広がっています。私たち全労連青年部は憲法を守り平和を望む仲間とともに、たたかう労働組合の青年部として結成25周年を迎えました。これからも全国の仲間の要求を掲げ、「とにかく行動！ 走れ青年部 集い、学びで輪をつくり、出来た願いを響かせる」という本大会スローガンの実現に向けて全力で奮闘することをここに決意します。

以上、宣言します。

2015年9月13日
全労連青年部第28回定期大会